報徳＠なう
発行人：田嶋 享

クラウドファンディング締め切り間近！！

9月14日から始まった報徳食センターのクラウドファンディング（大衆資金調達）は以下のような進行状況です

目標金額
250 万円
10 月 17 日末現在
236.9 万円
達成率
94%
残り 11 日
（10 月 28 日まで）



既にクラウドファンディング開始から1ヶ月以上経過し、皆様方のご支援で、ご寄付の金額は順調に進んできています。多大なご支援を賜り厚く感謝を申し上げます。

しかしながら、このクラウドファンディングは決められた期限の今月10月28日までに目標金額250万円に達しなければ、皆様方からお寄せいただいた金額はそのまま皆様方にお返しすることになると言うことです。要は、目標額に達しないような企画は支援するに値しないと評価されることになります。目標金額に達成しなければ、すべて無になってしまうということです。

もちろん、私たちは、生活に困っていられる方々に食品を提供する報徳食品支援センターの活動が意義あるものであると思っております。また多くの方々に活動の意義をご理解していただいていると思っております。

以上の経緯をご理解いただき、すでに多大なご支援をいただておりますが、最後にこのクラウドファンディングへのご支援の輪をさらに広げていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

小田原倫理法人会で講演



今月12日（水）に小田原倫理法人会のモーニングセミナーで、芥川卓会長様のご了解のもと、当会の活動内容についての講演をさせていただきました。

小田原市倫理法人会は、一般社団法人倫理研究会の小田原地区の企業経営者の会で、社員・社内の倫理を高めるだけでなく、社会的な活動も行なっていられます。

報徳食品支援センター副理事長の本岡俊郎より「報徳フードバンクの活動」について講演をさせていただきました。以下は講演の概要です。

①箱根町始めとして県西観光地は、観光客の季節変動が大きく、元々雇用が不安定であり、コロナ流行以前でも神奈川県内で所得水準は最低レベルであり、逆に生活保護の率は最高レベルにありました。

コロナ禍でさらに雇用条件が悪化し、仕事がない状況が続いており、生活に困る人が大幅に増えました。

②報徳食品支援センターは、令和2年度には、50㌧の食料を約1万人の方達に配布しました。また、今年度にはいってから、令和3年度前半4～9月までで約30㌧配布しました。昨年度を上回るペースで配布しています。

③日本の貧困対策状況について

＊日本は、他国に比べある程度福祉制度が充実しており、この国の制度からはみ出していると逆に貧困が見えにくくなっています。母子家庭、基礎年金だけの高齢世帯・外国人等が生活苦にあえいでいます。

外国では、貧富の差も激しく、福祉制度も不十分ですから、支援対象者が明確です。

＊外国はキリスト教等の慈善活動の長い歴史がありますが、日本は民間の慈善団体の組織が脆弱です。慈善・福祉の民間活動は国・地方公共団体等の公的補助に依存しています。

④日本の民間フードバンクは、欧米と比べて、まだ脆弱であり、食料の調達・配布の機能を高める必要があります。

さらに、国・地方自治体だけでなく、また地域の人達との連携も進めていくことも必要です。

さらにフードバンクへの公的補助に加え、地域方々・団体の支援も確立する必要があると思われます。当センターも地域の方々に認知し

ていただき、支援していただく方を増やしていくために努力したいとおもっています。

公演後、小田原倫理法人会の役員の方達と朝食兼ミーティングで、今後のボランティア連携についてもお話をしました。倫理法人会の皆様、このような機会を与えていただき改めて感謝申し上げます。



味噌ラッキー!!!

先日、大手の味噌メーカーさんから寄贈品の申し出がありました。外箱の表示不具合で販売できなくなったので、品質的には問題ない製品をフードバンクに寄附したいとの事です。大量の申し出で、とても小田原だけでは捌ききれません。しかし、全量引き受ける事にして、日頃から交流している他のフードバンクに話して、全部割り振る事ができました。SDGsの食品ロスを減らす事を具体的に実践するには、このように迅速な対応が必要です。メーカーの立場としても一気に引き受けてもらえる事ができたら、また何か販売不能品が発生したら当方に連絡をしてくれるでしょう。そして、この味噌は調べて知ったのだが、通販でも一個四百円近くする高級品で、配布先に案内したらすぐに希望者が次々と連絡してきました。久々に賞味期限が六カ月を残している商品配れるのは嬉しいです。

児童養護施設卒園者への支援

児童養護施設で育った子供たちは、十八歳で巣立って社会に出て行きます。しかし、多くの困難が待ち受けています。

そのような子供たちを支援する団体が公益財団法人「あいである」です。様々な活動をされていますが、施設退所者に食品の詰め合わせを送る「実家便」事業もその一つです。五年間計十回送ります。そのための食べ物は寄附で集めています。その「実家便」の準備をする倉庫会社が小田原にあった事から、我々にも協力を求められました。用意するのは、六百セット、賞味期限も十分残っていなくてはなりません。そういう条件に適う食品は、賞味期限が残り少ない食品が多いフードバンクでは、なかなか手に入りません。

たまたま、ピーナッツ 150 g袋のピーナッツとカップ入り減塩味噌 650 g入りが入手できたので贈る事ができました。

今回の「実家便」の〆切は十一月十日頃ですので、それまでに良い物が手に入れば、蛍田にあるその倉庫に届けたいと思っています。



本岡副理事長の思い ＆ 編集後記

緊急事態宣言も解除されて、予断はゆるされませんが、猛威を振るったコロナ禍も少し落ち着つく兆しが見えてきました。しかし、コロナ禍が収まったとしてもこの一年半以上の間、仕事を失ったり、大きく収入の減った人達の生活が元に戻る訳ではありません。小田原・箱根地区でも多くの小売業や飲食店が店を閉めました。元々コロナ以前から日本でも社会の上下間格差が広がりつつありましたが、十年かけて進む格差が一気にこの一年半で拡がってしまったような感じがします。閉められたお店で働いていた人の職場は戻って来ません。まだまだ食品支援の必要性は増える事があっても、減ることはないでしょう。報徳食品支援センターは、この二市八町の地域で一人でも食品に困っている方がおられましたら支援を続けていきます。

九月十七日から始めましたクラウドファンディングは、終盤を迎えています。おかげさまで多くの市民の方の賛同を得て、目標達成に向けて進んでいます。遠慮なくクラウドファンディングへの参加を積極的に呼びかける事で巾広い市民の皆様に当センターの活動を理解していただく事ができました。知名度が上がることで、これからも継続的に当センターを支えて下る方が増えたことは大きな力となります。

コロナが去っても、生活が困難な方の支援、特に福祉の制度が行きわたっていない、ひとり親家庭、基礎年金だけで暮らす高齢者、外国人労働者への支援を積極的に継続いたします。当センターの理事長田嶋享が日頃から申しております「よりそって助け合い、みんなで笑顔の街を作ろうよ」を実現したいと思います。